

## 寄書

うはさ

失 聖 生

本年東京美術學校洋畫科の入學希望者は八十名で、及第者は二十八名であつた。そして二年三年墨繪の研究に憂身をやつした人達が落第して、地方から出たての何も碌に出來ぬ先生達で入つたのもある。勿論學科は一つもなかつた。何故こんな結果になつたのかと聞いて見ると、受験者が描いて出した石膏の寫生を、○○兩先生が片端から見て往て、半分も見ないうちに定員に満ちてしまつたので、残りの分は其儘落第と極まつたとの事だ。噂だから信じられないが、是では眞面目に來年迄待つて試験を受ける氣になれない、美術の鑑査とか審査とかいふものもこんなものであらう、尤も今年の卒業製作を見ると何も好んで美術學校へ入りたくもないけれど。

## 圖書のある日

凭 美

澁々學校へ出たら案の錠數學と英語の教師に例によつて小言を澤山頂戴した、そうしたら他の生徒が其度に笑つた癩にさはつてたまらなんだ、けれど「畫の時間に見ろ」と腹の中に思つて居た。畫の時間に自分ながらもよく出來たと思つた寫生の一枚を持つて圖書の先生に批評を乞ふたら、大へんよく出來て居ますと賞めてくれた、そうして其畫と傍にあつた眞黒な下手な畫とを生徒の方へむけて何うですと云つたら又皆が笑ひ出した、其中に只一人赤い顔をして下をむいて居た奴がある、之が前の時間に僕が小言を食つた時一番笑つた奴だ、それ見ると云つてやつた、そうしたらむしろくしやして居た心も何處かへ去つてしまつた。

## 娛樂としての繪畫

大阪 龍 東 生

今は小學時代より繪畫に就ては殆どゼロであつたが、昨年或る本屋で「みづゑ」を見たのが動機となつて大に繪畫の趣味を惹起したので、其後「みづゑ」や洋繪講義録を師

として頻りと稽古をやつて居るが、此頃では下手乍らにも繪葉書一枚位は畫ける様になつたので、余は之を以て唯一の娛樂として居るのである。凡そ人は必ず娛樂がなければならぬ、娛樂は勞苦の慰安者であるから、そこで余は最も趣味の深き高尚なる娛樂として水彩畫を世人に勧めたいのである。

## 寫生小説

本多 金 藏

柿と林檎の寫生をして居ると、又おつちやんは畫いて居るの、畫ききつたらおくれといつて時々來て催促するのは今年五つになる姪だ。

寒い日に寫生して居ると、後から來て、いやお寒いのに御苦勞様と聲をかけられるとなんだか愚弄される氣がする。

あまり人の通らぬ橋の上で寫生を初めたら、さる人が來たので退くとたん、苦心慘憺漸く出來上つた水繪がげつさり川の中、こつちも氣の毒向ふも氣の毒に思つた、場所はつつしむべしだ。